



■ 奈良県保健環境研究センター4月だより ～春はロタウイルスのシーズンです～

子供の代表的な嘔吐下痢症ウイルスであるロタウイルスは、直径 60nm と 70nm の正 20 面体の二重の殻（キャプシド）で包まれており、電子顕微鏡写真では車輪（ラテン語で rota ロータ）状であることからこの名前が正式名として採用されました。このウイルスはヒトだけでなくネコ、トリ、ウシ、ウマやブタといったペットや家畜にも下痢症を起こし、人獣共通感染症の可能性もあるとされています。大きくはA～G群の区別がありますが、ヒトに感染するのは大部分がA群です。A群ロタウイルスは、さらにG1～G15型に分類されます。奈良県では保健環境研究センターが約10年にわたり調査を継続しており、図2に示したように、本県で流行するのは主にG1、G2、G3およびG4型のウイルスで、その割合は年ごとに変化していることがわかります。

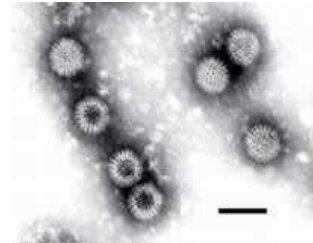


図1. ロタウイルスの電子顕微鏡写真  
（横棒スケールは100nm）  
Photo: F.P. Williams, U.S. EPA

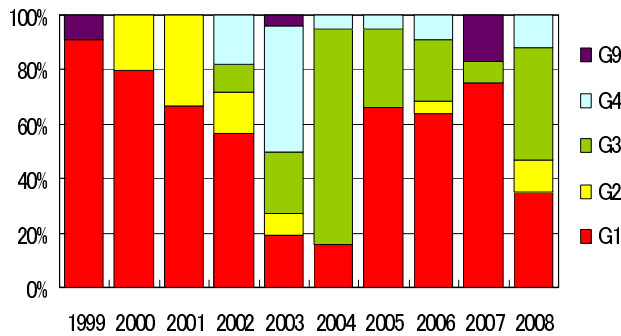


図2. 奈良県におけるロタウイルスのG血清型別発生頻度 (1999-2008)

わが国では、冬の終わりから春にかけて6歳以下の子供の間で毎年流行します。症状は白い下痢便（米のとぎ汁のよう）が特徴で、しばしば発熱を伴うほか、ごくまれに脳炎を起こすことがあります。1歳未満の赤ちゃんは何度も感染することがあるので注意が必要です。主な感染経路は吐物・糞便などの始末後の、手洗い、消毒などの不適切な処理です。ふつう、大人は感染しません（抗体を獲得しているから）が、オムツ処理などから感染したとみられる事例もありますので、今の季節、小さい子供がいる家庭ではぜひ注意してください。

（ウイルスチーム 井上 記）